



龍ヶ崎地方衛生組合 視察研修報告

視察日

平成 27 年 11 月 12 日～13 日

視察先

- ・ 北海道夕張市役所
- ・ 夕張市汚泥再生処理センター

視察目的

夕張市の汚泥再生処理センターが行う、し尿処理等の処理運営管理における衛生事務等、並びに財政再生計画についての状況を視察研修することにより、さらなる広域衛生及び行財政の進展及び運営の参考とすることを目的とする。

参加者

石川 修 小泉嘉忠

視察内容

夕張市は、道内中央に位置し、総面積の 90% 以上が林野で、河川流域以外、農耕が求

められず、気候等の地域特性に即応した農業振興が模索されました。

かつては市内で、石炭を採掘していましたが、エネルギー政策の転換により炭鉱が閉山し、昭和 35 年の人口 11 万 6,908 人をピークに、昭和 60 年 3 万 1,665 人、平成 27 年 4 月 1 日現在では 9,362 人と人口が激減しました。また、人口密度が低く、沢沿いに集落が点在し、下水道を全域に敷設するには効率面で非常に難しく、「平和し尿処理場」は、市の環境

衛生において果たす役割は大きいものでした。

しかし、昭和 32 年から一部増改造を施しつつ、57 年間に尿処理を行ってきたが、施設の老朽化・劣化が激しく、現在の人口も施設建設時の 10 分の 1 程度にまで減少し、維持管理費の負担も大きいことから、環境省所管の「循環型社会形成推進交付金・がんばる地域臨時交付金」を活用し、し尿、浄化槽汚泥に加えて、生ごみも再資源化でき、維持管理を考慮し、設備を同一建物に納める最新の技術を導入したコンパクトな施設「汚泥再生処理センター」を新設しました。

施設の特徴として、きれいな処理水を夕張川支流の志幌加別川に放流するため、膜分離高負荷脱窒素処理方法を採用しました。その処理工程よりリンを回収し、肥料として利用、また、生物脱臭、薬物脱臭、活性炭脱臭を組み合わせ

せることで臭気対策を行い、周辺環境に配慮した設備となっています。

夕張市の置かれている厳しい状況の中で、「汚泥再生処理センター」を建設したことは、市民生活の安全・安心な暮らしを支えるもので、将来のまちづくりにつながるものと考えます。当組合では、現在処理人口に大きな変化は出ていませんが、夕張市のように人口が減少した場合も想定し、処理施設の対策等で参考にしていきたいと思っています。



財政再生計画について学ぶ



施設の処理運営を研修